「大東市版ブロックチェーン構想　～株式会社京伸編～」

大東市版ブロックチェーン構想の一環として、「ものづくりコネクト」にご参加頂いている企業の発信内容をご紹介します。

第5回は、「**製造業で幸せになる**」

株式会社京伸　古川社長にインタビューをしました。

【株式会社京伸：https://www.f-kyo-shin.co.jp/】

「ものづくりへの想い」

大学時代に始めた板金加工会社でのアルバイト。そこから古川社長はものづくりの世界にはまっていきます。

大学に入って少し目標を見失いかけていた時に、たまたまアルバイト情報誌で見つけたのが工場内軽作業の募集でした。春休みに少しアルバイトをという考えで当時社員 5 人だった板金加工の工場に入ります。

そこで**ものを作れる楽しさ**を感じ、徐々に学業よりもものづくりの世界にはまっていきます。ついにはこの道で生きて行こうと決断。大学を中退してその会社に就職します。

その時、両親には反対され迷惑もかけましたが、「誰よりも仕事をして、恩返しをしよう！」と決意を固めます。

そこからものづくりの世界に没頭した古川社長は 3 年目には工場長になり、気が付けば社員も 15 人に増えていました。

「社長からは板金についての知識だけでなく、組織作りや経営についても学んだ。」と当時を振り返ります。

「創業の想い」

古川社長は 30 歳の時に独立を決意し、そこからたばこもギャンブルもすべてやめ、3 年間起業の為の準備に入りました。

この時、銀行に起業のための準備資金を 3 年間毎月定額で貯めていったことが、後に銀行との信頼関係に繋がります。

そして 2008 年。33 歳の時に株式会社京伸を創業します。

創業時、取引先は0の状態でのスタートでしたが、自社のことを知ってもらおうと、ホームページを制作。そのホームページがお客様を呼んできてくれました。

当時、できる仕事は全部やろうと思って、とても忙しくしていましたが、とても楽しく「**仕事以外に会社を作るということが楽しかった。**」と振り返ります。

「危機を乗り越えて」

そんな創業期でしたが、仕事は順調に増え、とても忙しい毎日を過ごしていく中で、人の問題が大きくなります。まさに寝る間を惜しんで自ら働いていたのですが、それについてこれない社員の方も多く、人が辞めていってしまうという問題に直面します。

営業サイドと工場サイドの考え方の乖離も大きくなります。そこで「労働環境を変えていかないと人がついてこない。」と考え、業務改善に着手します。

「システム化」

「いかに効率化を図るのか。」

生産管理システムを導入することにより、効率化が促進され、その結果、社員の数は 15 名→30 名まで増やすことができました。

「会社を大きくしたいのであれば生産管理システムは必須」と、古川社長は言います。

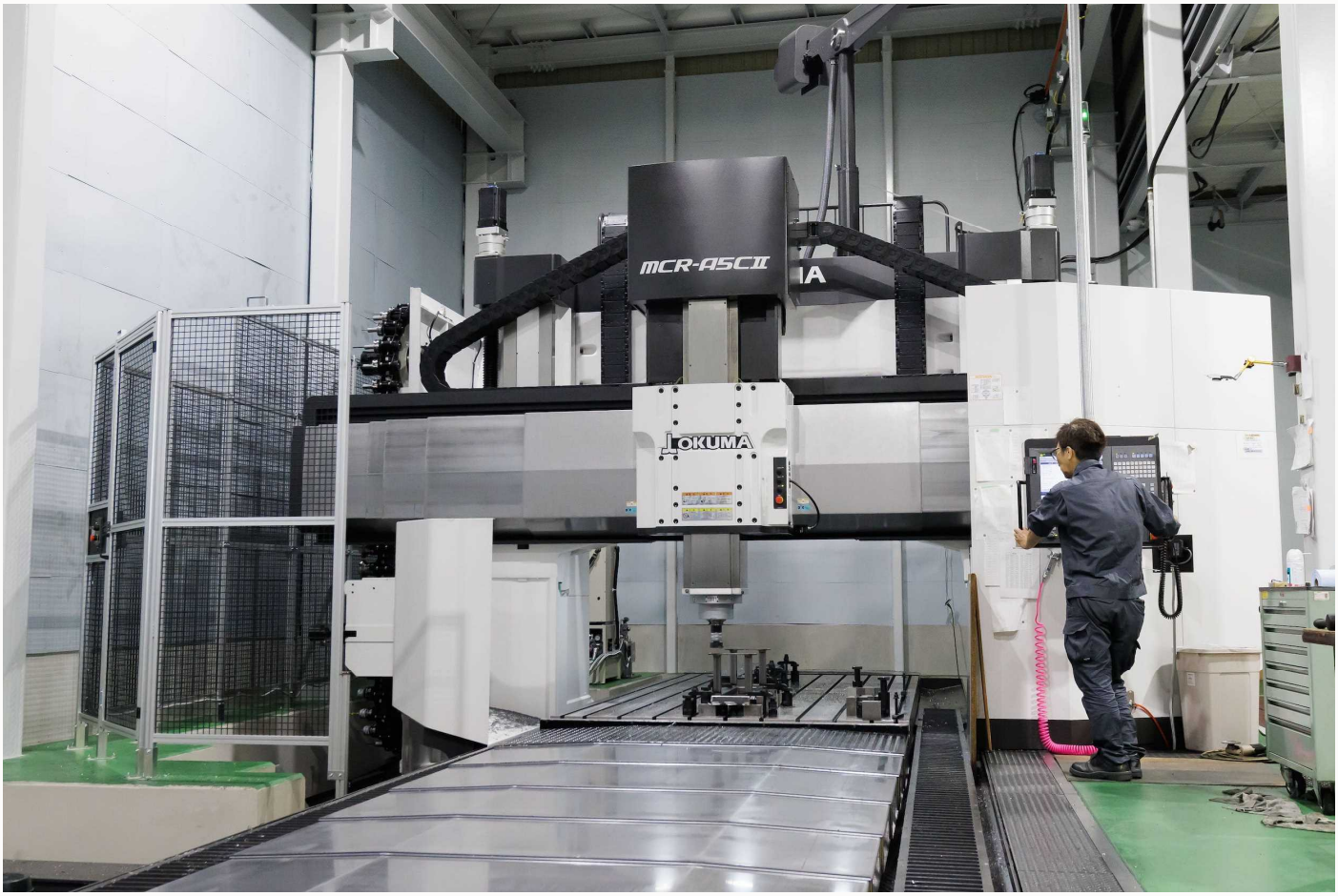
また、大きな特徴は、専用のメールソフトを自社製作して使用していることです。メールを個人に紐づけると個人のスキルに頼ってしまうため、会社として仕事のやり取りは一本のアドレスに集約し、色分けをして誰もがチェックできる仕組みを導入することで、大きく業務改善が行われました。

「将来への展望」

1. 精密板金事業から総合金属加工メーカーへ

現在は板金加工から製罐溶接加工を事業の中心と据えていますが、新たに切削加工まで対応し、一元化した総合金属加工メーカーを目指しています。

切削加工についてはまず人材の採用からスタートし、3 年から 4 年の期間を経て、その準備は整いました。今後は、自社内で一貫生産することで、今より数段のスピードアップが図れます。そして、より付加価値の高い単品小ロット生産を武器に、産機・半導体・工作機業界へ進出していきます。



2.「金属加工×フィットネス」トレーニングの新しい可能性を切り拓く国産マシンメーカーへ

現在、フィットネス機器の国産メーカーはほとんどなく、輸入に頼っています。

また、現在の健康志向の高まりにより、国も筋トレを奨励しており、今後フィットネス人口が大きく増えたり、企業での福利厚生としての活用も伸びたりすることが考えられます。

フィットネス機器を自社で製造して販売することを事業の柱の一つにしていきます。

https://youtu.be/lUDLIBZBQc

3. 自社内業務の効率化ツールをサービス化

株式会社京伸の自社制作の、効率化や社内コミュニケーションのシステム化をさらに進め、最終的にはシステムの販売・サービス化を行うところまで目指します。

株式会社京伸の次回は、令和5年 11 月に大東市で行われたオープンファクトリーについて、
業務改善活動について社員の方に伺います。

ご期待ください。